

ごみは正しく捨てましょう

わたしたちが生活する上で、ごみは毎日のように出てきます。市では、ごみの収集などを業者に委託していますが、最近正しく分別されていないごみや山間部ではごみの不法投棄も見受けられます。今月号では、わたしたちの生活に直接関わるごみについて、収集などにおける問題点や分別のこつ、不法投棄の現状などをお知らせします。

収集のルール

「いつも昼に収集車が来るので、昼ごろ出しておいただけど収集されていない」「前日に出しておいたら犬猫に袋を荒らされた」「他の地区の人が勝手にうちの地区のごみ箱にごみを置いていく」などの苦情が寄せられています。

ごみを出す収集時間や出す場所にはルールがあります。

ルールを守らないと、ごみを収集できない原因になりますので、以下のルールを守って出してください。ごみは、当日の朝8時までに、地区などで定められた場所（ごみステーション）に出してください。なお、その日のごみの収集量が多少収集時間が前後する場合があります。

分別できていないと上手く資源化できません

正しく分別されたごみは、堆肥化されたり資源になったり有効に活用されています。しかし、生ごみの袋にビニールやつまようじなどが入っていると、堆肥化した後に残ってしまい、堆肥として使用できなくなります。少しでも異物が入った生ごみは、残念ですが「生ごみ」ではなく「もえるごみ」として収集・処理することになります。

資源ごみも、中身が入っていたり、ほかの物が混ざっていたりすると、資源化が難しくなり、無駄が出てしまいます。

分別のポイント（表1）を覚えて、限りある資源を有効に活用しましょう。



表1 分別のポイント

収集できないもの	粗大ごみ (ステッカー)	その他の不燃ごみ	危険物	ペットボトル	びん専用	飲料用の缶	生ごみ	もえるごみ	袋の種類
法律や処理場できず、収集できないものがあります。	(鷹島地区) 粗大ごみステッカーを出している。	飲料用の缶、瓶が入っている。	スプレー缶(穴が開いていない)	まだ中身(飲料など)が残っている。	ふたを取っていない。	缶詰やほかの金属類が入っている。	生ごみ以外のものが入っている。(調味料の小袋、割りばし、ペーパー、紙、アルミホイルなど)	不燃物が入っている。	よくある間違い
家電4品目(テレビ、エアコン、洗濯機、冷蔵庫)、パソコン、右記以外にありませんので、ごみ分別帳か市役所で確認してください。	(鷹島地区) 粗大ごみステッカーを出している。	飲料用の缶、瓶(他の袋に入らない物)の不燃物を入れる袋です。燃える部分と金属が分けられない品物はこの袋に入れて出します。	乾電池・スプレー缶・蛍光管・針がついたもの・刃物などを入れる袋です。	◎中身は空にして出す。 ペットボトルだけをつぶさないで袋に入れる。ラベル・ふたを外す。			生ごみだけをを入れる。ビニール、箸、紙は「もえるごみ」の袋に。	燃えるものだけを入れる。(紙・木・ビニール・プラスチック・布でできた製品など)	

不法投棄の現況

市では、市内の山林などに投棄される廃棄物の対策として、不法投棄監視業務を委託し、市内の不法投棄を監視しています。

市内の不法投棄は、空き缶ひとつのポイ捨てからテレビなどの家庭ごみの投棄、産業廃棄物の投棄までさまざまな物が投棄されています。

市は不法投棄を発見、もしくは投棄の通報を受けると、現場を確認した後、県北保健所と松浦警察署の協力を得ながら、投棄者の特定と投棄物撤去の指導を行っています。さらに、年1回、保健所・警察署と合同で不法投棄パトロールを行い、大規模な投棄の指導を行っています。



不法投棄されたごみ



近年、不法投棄は増加傾向にあり、平成19年度中に市で確認した不法投棄の数は85件にも及びます。その内容は、古い家電製品や家庭ごみ、自転車・布団などの家庭からと思われる廃棄物がほとんどです。また、毎日、昼休みに駐車場で休憩した後、に弁当がらを捨てていくという悪質な事例もあります。

投棄者を確認し、投棄者自身に廃棄物を撤去させるようにしていますが、やむなく市で撤去する場合もあります。平成19年度に不法投棄物をクリーンセンターで処理したごみの量は約7・6トにもなります。これに家電4品目などのセンターで処理できないものを含めると、総量はさらに多くなります。

こぼれ話

不法投棄防止を訴え、ごみ拾い

熊本県のまちづくりの団体「青年協議会」の代表上村剛さん（熊本県宇土市、33）が10月23日、市役所を訪れ、有田町から市役所までに拾ったごみを市民生活課に渡しました。



上村さんは、不法投棄の防止や環境保全などを訴えながら、熊本市から平戸市生月町まで約220キロを、一人でリヤカーを引いてごみを拾いながら歩きました。同趣旨での旅は、熊本宇城、熊本から鹿児島、熊本から宮崎に次いで、今回で4回目になります。

上村さんは「心のそうじ隊」ののぼりを掲げて実施しているこの活動は、一般の人にも参加を呼びかけながら、参加する人の心もきれいにしようという趣旨で行っています。まちなを掃除することは、誰にでもできるまちおこしの一つだと考えます」と話していました。



▶ 翠日市長の激励を受けて出発する上村さん

生ごみ袋の使用に ごまかさない

市民の皆さんには、ごみ分別と資源化に協力いただいています。最近、生ごみ袋を使用した人から、「袋が破れやすい」「生ごみを入れた途端に袋が裂ける」といった苦情を受けました。

生ごみ袋は、袋自体も最終的に堆肥化する素材になっています。この理由から製造日から約1年を経過すると、熱や湿気などが原因で袋の耐久性（強さ）が徐々に弱くなり破れやすくなっています。

現在は、袋自体を厚くして強度を補強し、販売店にある古い在庫は交換して、なるべく新しいものを販売するようにしています。約1年間の耐用期間は変わりません。

使用するときには、買いためをせずにこまめに買って使ってください。



最近では、通勤途中で道端にごみを投げ捨てていくような事例も地区から相談があつています。市では、悪質な事例には断固とした態度で臨み、市民のマナーアップのために不法投棄対策に取り組むたいと考えています。

年末はごみが多く出る時期です。ごみは、ルールをきちんと守って正しく出しましょう。※年末・年始のごみ収集・し尿の汲み取りについては9ページ参照。

○問合せ先 市民生活課生 活環境係